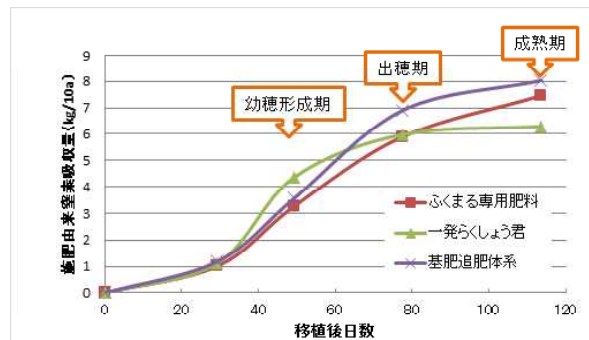


I 茨城県オリジナル水稻品種

「ふくまる」栽培マニュアルの作成について

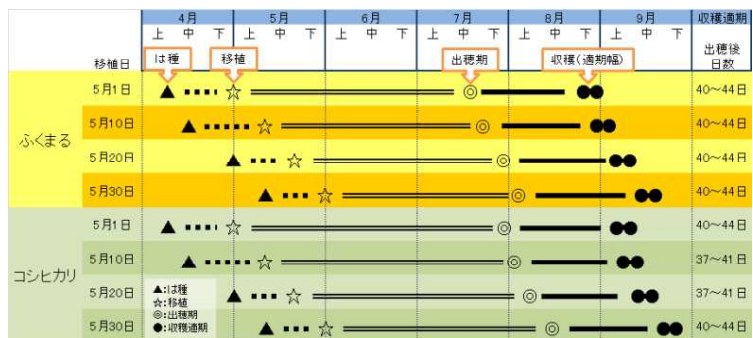
農業研究所では、大粒で安定した外観品質とおいしさを兼ね備えた本県育成の早生水稻品種「ふくまる」に適した全量基肥一発専用肥料の開発、「ふくまる」の移植時期と収穫適期の関係や、県内で発生が拡大傾向にあるイネ縞葉枯病の防除対策の研究を進め、今回成果をまとめ栽培マニュアルを作成しました。

① 開発した「ふくまる」専用全量基肥一発肥料は、窒素吸収パターンが既存肥料に比べ、基肥追肥体系と類似しており、幼穂形成期以降の窒素溶出が多くなるため、千粒重が重く、同等の収量が得られます。平成27年度から「ふくまる専用どっさり24」として販売されます。



図「ふくまる専用どっさり24」の施肥窒素吸収量(農研H25~26)

② 「ふくまる」は「コシヒカリ」と比べ、出穂期、成熟期で7日ほど早くなり、両品種の移植期を調整することで作期の分散ができます。「ふくまる」を5月20日より前に移植することで5月中旬に移植した「コシヒカリ」より先に収穫できます。



図「ふくまる」および「コシヒカリ」の移植時期と収穫適期の関係
注)収穫適期は整粒歩合、肩米率、検査等級から総合的に判断しています

③ 「ふくまる」は「コシヒカリ」と同様にイネ縞葉枯病に対する抵抗性がないため、発生が懸念される地域（特に県西地域）では、長期残効が得られる育苗箱施用の殺虫剤により、ウイルス媒介虫のヒメトビウンカを防除する必要があります。

茨城県ふくまる推進協議会において、「ふくまる」の栽培マニュアルを作成し集荷団体を通して栽培農家へ配布をしています。本マニュアルには、土壌区分別施肥基準や栽培管理等が詳しくまとめられています。マニュアルを活用し、収量600kg/10a以上（千粒重23.5g以上、検査等級1等）を達成してください。

作物の生育情報はこちらから

農業研究所では、水稻・麦類・大豆・かんしょ・落花生の生育情報をホームページ（<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>）で提供しています。

Ⅱ トピックス

茨城県農業経営士との意見交換会を開催

2月12日に農業総合センターにおいて茨城県農業経営士協会普通作部会の研修会が開催され、15名の農業経営士等の皆さまと農業研究所員との意見交換会を行いました。本会は、農業経営士等の皆さまの御協力により今年で10年目を迎えることができました。

農業研究所からは、水稻、麦、大豆関係の試験研究の取組み及び次年度からの新規課題について説明しました。麦・大豆栽培では、改良型アップカットロータリを使用した畝立て同時播種機について意見交換を行い、谷田部貞雄農業経営士（石岡市）からは、耕うん同時畝立て播種により小麦収量が倍近い7俵に増収したこと、大豆においても明らかに収量品質が向上していることが紹介されました。耕うん畝立て同時播種機は石岡市を中心に7台が導入され、70haで普及がされています。排水不良転換畑等での麦・大豆の収量品質向上技術として期待されます。



大規模水田農業経営体の若手経営者との意見交換会を開催

2月26日に農業総合センターにおいて、大規模水田農業経営体若手経営者40名と農業研究所員・関係機関等総勢約100名が参加して意見交換会が開催されました。本会は、大規模水田農業経営を担う若手経営者と研究員が一堂に会し、研究成果や経営体の抱える課題・現場ニーズ等について意見交換を行うため、初めて開催されました。

意見交換会前に研究員が若手経営者を訪問しアンケートによる聞き取り調査を行った結果、大規模経営体の関心事として、第一に米価下落が上げられ、規模拡大の意向の中で、労働力・担い手の確保などが課題となっていました。また、ICT（情報通信技術）の具体的な活用として圃場管理や栽培管理支援などに大きな期待があることがわかりました。

農業研究所では、若手経営者の圃場で現地試験を行っており、さらに積極的に生産現場の課題を解決できるよう取り組んでいきます。



編集・発行／茨城県農業総合センター農業研究所
〒311-4203 水戸市上国井町3402
TEL 029-239-7211(代)
FAX 029-239-7306
Eメール nouken@agri.pref.ibaraki.jp
水田利用研究室
〒301-0816 龍ヶ崎市大徳町3974
TEL 0297-62-0206
FAX 0297-64-0667